

ぬくもりご利用者の生活 ～普段の様子を一部ご紹介～

【グループホーム】

☆F様(93歳、女性、介3)はトイレや居間の場所が日常的に分からなくなるため、他ご利用者様が途中まで案内されるなど、協力しあって生活される。日常場面でこのようなことがよく見られる。



☆M様(88歳、男性、介2)やO様(88歳、男性、介2)は、ゲームの時間など、リーダー的な役割を担う。「そんなことしちゃあいけんわあね。」と利用者様の和を配慮されるなど楽しく過ごされる。

☆S様(94歳、女性、介4)は、機嫌がいい時は穏やかな方。夜間、急に暴言モードにスイッチが入られることがあり、職員がお布団をかけると「何やっとなるか！へたくそ！ぼけたれ！ばかたれ！出ていけ！」と言われ、職員が退室しても部屋の中から大声が続くことがある。

☆Y様(88歳、女性、介2)は、他ご利用者に「家に帰ろうや」と誘われるが、誘われたご利用者は「あんた、そんなこと言うちゃあいけんよ。職員を困らせたらいけんよ。」となだめられる。その方も実は入居当初以来、帰宅願望が強い方。

【小規模多機能ホーム】

☆O様(98歳、介3)はマイペースでありながら周囲への気配りを忘れない。おやつの時間ですよと職員が声かけすると、「まあ。皆さんが集まるならお菓子を山根屋かどこかで買ってこなきゃ。あなた一緒に行ってくれる？バスはあるかしら。」と段取りを気にされる。大丈夫ですよとお答えすると「私はもうすぐ100だから何にもできなくてごめんなさいね。ありがとうございます。」と安心される。毎日通いサービスと宿泊サービスをご利用。

☆N様(91歳、要支2)は、健康志向が強い。「ぼけないよう色々やってます。」と「薬も人任せにしないで、自分で飲む習慣は『脳トレ』になるから続けたいのよ。」と言われる。毎晩ぬくもりご宿泊、日中は通常ご自宅に戻られる。

☆O様(95歳、介4)は、お子様の帰省に合わせて、年に数回ご自宅に戻られる。ぬくもりでは脚力の低下を防ぐため、毎日歩行器にて歩行(ぬくもり玄関先まで往復)や、テーブルにてその場で屈伸運動をされる。「屈伸運動のあとは、案外脚が軽くなっていいですよ。」と言われ、何度かに分けて取り組まれる。ぬくもり周辺の野花を時々活けて頂いている。